

施策マネジメントシート1(20年度目標達成度評価)

作成日 平成 21 年 6 月 23 日
更新日 平成 21 年 10 月 23 日

総合計画体系	政策No. 1	政策名	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり	施策統括課	総務課	施策統括課長名	後藤 一男
	施策No. 3	施策名	交通安全対策の推進	関係課	子育て支援課、高齢者支援課、建設課、学校教育課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
市内道路とその利用者

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
交通事故にあわない、起こさないようにする

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

交通事故発生件数(人口当たり)、交通事故死亡者数、市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数(人口1万人当たり)の指標は全て大津警察署にて把握可能。
なお、市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数(人口1万人当たり)については、「免許人口(合志市在住)1万人当たりの第一当事者の事故件数」のデータにより把握する。

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 人口	人
B 車両保有台数	台
C 道路延長(農道、市道、県道、国道)	m
④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 交通事故発生件数	件
B 交通事故死亡者数	人
C 市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数(人口1万人当たり)	件
D	
E	

2 指標等の推移

指標名			単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
対象指標	A	人	見込み値					53,909	54,518	55,124	55,732
			実績値	52,085	52,695	53,303	54,027	54,407			
	B	台	見込み値				41,506	42,115	42,721	43,329	
			実績値		40,115	40,900	42,147	42,586			
	C	m	見込み値				480,142	480,719	481,296	481,873	
			実績値	478,412	479,223	479,565	480,912	482,687			
成果指標	A	件	目標値				370	365	360	355	
			実績値	348	368	376	336	348			
	B	人	目標値				0	0	0	0	
			実績値	4	2	5	1	2			
	C	件	目標値				107.0	104.0	101.0	98.0	
			実績値	113.5	105.4	110.0	69.2	62.7			
	D		目標値								
			実績値								
	E		目標値								
			実績値								
事務事業数				本数		20	17	17	16	16	
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円			41,449	111,400	286,100	181,797	103,400
			都道府県支出金	千円			0	0	0	0	11,288
			地方債	千円			73,035	157,574	296,120	207,350	146,300
			その他	千円			0	0	0	0	0
			繰入金	千円			0	0	0	0	0
			一般財源	千円			23,753	32,488	40,846	44,325	34,336
		事業費計（A）	千円	0	0	138,237	301,462	623,066	433,472	295,324	
		(A)のうち指定経費	千円			0	0	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円			0	1,560	6,093	6,077	47		
	人件費	延べ業務時間	時間			5,687	8,782	5,964	9,498	7,508	
		人件費計（B）	千円			22,748	35,127	23,856	37,993	30,033	
	トータルコスト(A)+(B)			千円	0	0	160,985	336,589	646,922	471,465	325,357

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)	交通事故発生件数(A)の目標値は、地域の人たちによる交通安全ボランティアの取組みの促進、交通安全教育の実施、交通安全施設の充実、警察との連携強化による交通規制の強化を図ることで、22年度までに355件を下回ることができると考え設定した。 交通事故死亡者数(B)の目標値は、地域の人たちによる交通安全ボランティアの取組みの促進、交通安全教育の実施、交通安全施設の充実、警察との連携強化によるシートベルト、ヘルメットの着用100%の達成、交通規制の強化に加え、交通事故被害者の迅速な搬送の強化など徹底して実施することにより死亡者を0人にするとして設定した。 市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数(人口1万人当たり)(C)については、交通事故発生件数(A)の目標値に連動しており、22年度では、98と設定した。
基本計画期間における施策の方針	・運転者のマナー向上を図り、市民が第一当事者となった県内での交通事故発生件数を抑制する。 ・常時ワースト上位(15位以内)に入っているため、平成22年度までに脱却をはかる。
全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携	・歩道を設置し通学路の整備を進める。

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・住民は交通安全に関する意識を高め、交通法規を遵守する。
 - ・地域住民で自主的に交通安全教室を開いたり、危険箇所マップなどを作成する。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・市は交通安全環境の整備を行う。また交通安全意識の啓発、教育を行う。
- ・県公安委員会との連携を図り、地域の実情を踏まえ、交通安全施設の充実に努める。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成22年度を見越して)

- ・人口増加が見込まれるため、それに伴う事故が増えることが予想される。
- ・交通法規が厳罰化の方向にある。
- ・18年度に第8次交通安全計画(22年度まで)を策定した。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・住民、議員から交通安全施設(カーブミラー、区画線、警戒標識等)の充実に求める声がある。
- また、信号機や横断歩道の設置、道路改良の要望もある。・学校や地域からは交通安全用品配布の要望がある。
- ・市民ワークショップでは「通学路の整備が遅れている」「新しい団地を開発するときは、交通の抜け道とならないような道路作りを考慮してほしい。(交通量が増加し、住んでいる人が危険になる)」「高齢者や子ども達も一緒に地区ごとの交通安全の取り組みをやってほしい。」「地域危険箇所を確認して事故発生マップを作る。(事故多発箇所に標識を作る)」などの意見があった。

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(20年度目標と実績との比較)

- A → ○【 交通事故発生件数 】
：目標値365件に対し実績値348件であり、目標は達成できた。
- B → ×【 交通事故死亡者数 】
：目標値0人に対し実績値では2人であり、目標を達成できなかった。
- C → ○【 市民が第1当事者なった県内での交通事故発生件数 】
：目標値104件に対し実績値62.7件であり、目標は達成できた。
- D → 【 】
：
- E → 【 】
：
- F → 【 】
：

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(−5%程度) ×:目標を未達成

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

- A:目標値に比べ、実績値は減少しているが、全年度と比較すれば増加しており、目標は達成しているが、経年では増加しており、今後も取り組みを強化したい。
- ただし、減少の背景には、計画的な道路整備、危険箇所への対応が関係しているものと思われる。
- B:目標値、前年度比も増。実績2人は、いずれも高齢者の夕方から夜間にかけての道路横断中の事故である。
- C:目標値、前年度比、いずれも減少。市民の安全運転意識の向上が図られたものと思われる。

② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

- ・交通安全対策は、施設を含む交通環境の整備と啓発が必要であるので、今後も継続して取り組みを行っていくことが大切である。
- ・事務事業貢献度評価の結果では、平成20年度施策の成果を向上させるために特に貢献したとして交通安全施設設置事業があげられた。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・啓発面では、高齢者の事故防止に向けた取り組みを工夫していく必要がある。
- ・施設整備の面では、道路整備に係る用地交渉への住民の理解と協力が必要である。

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

5 施策の20年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成21年 7月 2日)

- ・施設整備の面で、危険箇所、要望箇所(信号機等)への設置に向けて、区長等からの要望事項一覧を整備し、公安上設置が困難な箇所には、行政でできる注意喚起の看板等で対応すること。
- ・信号機の設置など、公安委員会が設置するものに対しては、要望箇所等の優先順位を決めて働きかけを強化していくこと。
- ・交通死亡事故の現状として、2件とも高齢者の事故であり、機会を捉えて高齢者を対象とした交通安全啓発に取り組んでいくこと。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成21年 8月 5日、8月10日、8月26日、9月3日まとめ)

- ・高齢者を対象とした交通安全対策の推進を図る。
- ・運転者を対象とした安全運転の啓発と、学童を対象とした交通安全教育の徹底を図る。
- ・市民ワークショップの意見のとおり、事故発生マップを作成し、市民により分かりやすく示す必要がある。
- ・学校周辺の交通安全対策の充実をすすめる。
- ・地域からの交通安全施設の要望に対しては、迅速に対応することが求められる。

③ 議会の決算審査における指摘事項(平成21年10月 2日)

- ・死亡者0を目指し、特に高齢者の免許証の返還ができるような環境を整える。
- ・車椅子対応の歩道を充実するとともに安全標識の充実を図る。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成22年度合志市経営方針(平成21年10月23日)

- ①児童生徒や高齢者の自転車運転マナーの向上を図る。
- ②高齢者を対象とした交通安全対策の推進を図る。
- ③道路改良や交通安全施設の整備による費用便益の明確化を図る。

基本事業名	8 交通安全意識の高揚
-------	-------------

基本事業担当課	総務課
---------	-----

対象	歩行者、運転手、同乗者
----	-------------

意図	交通安全意識が高まる
----	------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 交通安全教室を開催している団体数	団体	目標値				70	73	75	80
		実績値	66	50	68	51	70		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

成果指標「交通安全教室を開催している団体数」については、今後保育園、幼稚園、学校(小学校)、老人会、シルバー人材センターでの開催はもちろん、自治会での交通安全教室の開催を働きかけ、22年度には、80団体での開催を目標とする。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

前年度と比較すれば、19団体の増加であるが、前年度は協会の不祥事で一時交通安全教室を休止していた時期があったので、簡単に比較はできない。教室を開催される団体は毎年ほぼ同じであり、新たに開催される団体の掘り起こしが必要である。また、前年度の交通事故死者2名は、いずれも夕方から夜間にかけての高齢者の道路横断中の事故であることから、高齢者向けの交通安全教室について、その開催と内容の検討が必要である。

基本事業名	9 交通事故防止対策の推進
-------	---------------

基本事業担当課	総務課
---------	-----

対象	歩行者、運転手、同乗者
----	-------------

意図	事故を起こさないように行動できる
----	------------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数	件	目標値				380	380	370	360
		実績値	377	364	380	364	334		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

成果指標「市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数」は、交通安全の指導啓発を継続し、さらに警察との連携強化による交通規制の強化、運転者のマナー向上に取り組むことにより、交通事故発生件数を減少させる。22年度の目標を360件に設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

合併後、実績値については、減少傾向にある。交通事故防止には、道路環境や交通安全施設の整備をはじめ、市民の運転マナーの向上も欠かせない。啓発は繰り返し繰り返し、根気強く続けていくことが大切なので、実績値が減少したといえども、今後も啓発活動が必要である。

基本事業名	10 交通安全施設の整備
-------	--------------

基本事業担当課	総務課
---------	-----

対象	市内道路
----	------

意図	事故誘発の要因とならない道路になっている
----	----------------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 設置箇所数/地区からの要望箇所の内、必要と判断された箇所数×100	%	目標値				91.0	92.0	93.0	95.0
		実績値			90.0	92.5	80.0		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

事故発生件数、交通事情を総合的に把握し、必要箇所全てについて事故防止のための適正な安全施設を設置するように努める。成果指標については、管内の危険重点箇所を調査し、交通事情の把握に努め、地区から要望のあった危険箇所については、現地の状況等考慮しさらに適正な安全施設の設置に努め、22年度の目標値を95%とした。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

カーブミラー設置要望40件に対し、施行32件。未実施の8件分は、調査の結果、危険性が少なかった箇所である。今後も危険性の高い必要な箇所の整備に努めていく。